

(第一紙) T24p396a06~

1 □□説一切有部毘奈耶雜事卷第三十八 三藏法師義淨奉 制譯

2 第八門第十子攝頌説涅槃之餘

3 爾時拘尸那城有出家外道名曰善賢(梵云蘇跋陁羅)

4 年百二十形容衰朽俱尸那城所有壯士於

5 善賢處悉生恭敬尊重供養如阿羅漢去斯

6 不遠有大花池名曰曼陁<sup>2</sup>。枳<sup>3</sup>爾於池岸上□<sup>4</sup>

7 烏曇跋樹善賢梵志常遊於此往昔菩薩在

8 □□<sup>5</sup>作白象狀入母胎時彼烏曇樹花胎。

9 新出降誕之始漸有光色為童子時其花欲

10 發<sup>6</sup>。老病死遠託山林其花稍大狀如鷓鴣嘴

11 修苦行時現萎萃相捨苦行已氣息疎通噉

12 諸飲食廣如前説乃至成等正覺其花開敷

13 梵王來請於婆羅痾斯轉法輪時其樹及花

14 光色榮盛妙香芬馥遍諸方界然佛大悲普

15 於有緣所在世界廣濟度已詣拘尸那為最

16 後臥而此花樹形色枯萃見者驚歎是時善

17 賢觀斯變異而作是念拘尸那城必有凶禍

18 爾時護國天神發大音聲告諸人曰今日如

19 來於中夜時必入無餘妙涅槃界善賢梵志

20 聞其説已作如是念哀哉苦哉彼大沙門喬

21 答摩氏必於今夜當般涅槃然我每於自所

22 得法有懷疑惑常自思惟我於何時因何方

23 便得見彼人諮啓未悟惜哉法眼不久將滅

(第二紙) T24p396b03~

1 今宜速往親自啓問若蒙大悲垂哀為決於

2 諸猶豫永得開解作是念已出拘尸那城詣

3 雙林所于時阿難隨見佛日將沒在寺門外

4 身心憂感露地經行善賢見已近而告曰汝

5 阿難<sup>7</sup>。我聞沙門喬答摩具一切智於諸衆

6 生平等濟拔然我每於自所得法有懷猶豫

1 大正藏では「根本」とする。

2 大正藏では「華」とする。

3 大正藏では「陀」とする、以下同様。

4 大正藏では「有」とする。

5 大正藏では「觀史天」とする。

6 大正藏では「始」とする。

7 大正藏では「厭」とする。

8 大正藏では「厭」とする、以下同様。

7 比常希願聽受未聞竟不果遂今聞天聲遍  
8 告我等如來今夜定入涅槃大德頗能為我  
9 諮啓容我面奉申述疑情阿難隨言善賢汝  
10 今不應作如是語故惱世尊然我大師今見  
11 背痛未能安隱善賢如是再三諮啓竟不為  
12 白又告曰阿難隨我昔曾聞古仙梵志耆年  
13 有德軌範人說諸佛出世如烏曇花億百萬  
14 劫時乃一現如來今日定入涅槃我懷迷惑  
15 願見諮問唯希大德為我諮白我得見佛誠  
16 為幸甚阿難隨告言善賢今我大師身有乖  
17 違甚不安隱勿故相惱善賢再三如前苦請  
18 尊者不允其志阿難隨與善賢於寺門外共  
19 言論時佛以清淨耳超越人天一一聞說告  
20 阿難隨曰汝今不應遮彼善賢任來見我隨  
21 其請問何以故此善賢者即是我於最後為  
22 外道說法令生正信親命善來為我弟子于  
23 時善賢聞佛世尊慈悲容許心生歡喜不勝  
24 抃躍詣世尊所共申種種往復言談却住一  
25 面白言喬答摩我欲諮問願垂聽許為我解

(第二紙) T24p396b28~

1 說佛告梵志隨汝所問彼即問曰喬答摩我  
2 曾遍觀諸外道類各別立宗所謂瞞刺拏迦  
3 攝波子末塞羯利瞿梨子珊逝移毘刺知子  
4 阿市多雞舍甘跋羅子脚俱陀迦多演那子  
5 昵揭爛陀慎若低子此等諸師各述異宗未  
6 知誰是爾時世尊即命善賢為說伽他曰  
7 我年二十九 出家求善法 又五十餘年 專行戒定慧  
8 一心無散亂 唯求於正理 除斯真法外 無別有沙門  
9 爾時世尊說此頌已復告善賢曰此是諸佛  
10 善說八聖道支甚為希有難可值遇除此已  
11 外欲求一三三四沙門道果終無可得是故  
12 能於善說法律八聖道支求沙門果必定當  
13 得復次善賢離八聖法諸有外道婆羅門等  
14 各執已見或說三世無因無果所修福善皆  
15 空無益是故我於沙門婆羅門衆中大師子  
16 吼而作是言凡有修行皆獲果報說此法時

17 善賢梵志遠塵離垢得法眼淨於諸諦寶<sup>6</sup>得  
 18 不壞信超越愛河斷諸疑網自然通達諸微  
 19 妙法即從座起整衣合掌向阿難隨作如是  
 20 語大師尊重事難諮請我觀大德獲大善利  
 21 幸得值遇無上法王於諸師中灌頂最上由  
 22 師力故我亦善證我今重希於善說法律而  
 23 為出家求受近圓成苾芻性修沙門行時具  
 24 壽阿難隨白佛言世尊今此善賢聞法悟解  
 25 心樂出家廣如前説乃至成苾芻性唯願世

(第四紙) T24p396c27~

1 尊哀愍拔濟爾時世尊即告善賢善來苾芻  
 2 可修梵行於佛言下如常威儀出家近圓成  
 3 苾芻性一心勤勇不為放逸作如是念善男  
 4 子何故剃除鬚髮而披法服正信出家於無  
 5 上道而修梵行於現法中得自證悟我生已  
 6 盡梵行已立所作已辦不受後有爾時善賢  
 7 起徹到心即便速證阿羅漢果得心解脫復  
 8 作是念我今不忍見佛般涅槃宜可先去作  
 9 是念已詣世尊所頂禮雙足退坐一面白佛  
 10 言大德世尊我願先入涅槃佛告善賢汝於  
 11 今者入涅槃耶答言如是再三顧問佛言一  
 12 切諸行皆悉無常汝於所作自可知時我更  
 13 何言善賢將欲入滅而作是念我今應為五  
 14 種加持方可滅度諸來觀者皆見我身剃除  
 15 鬚髮著僧伽胝莫令彼見外道儀式又諸外  
 16 道來<sup>7</sup>昇<sup>8</sup>我時勿令身舉同梵行者方能舉  
 17 去又入浴池洗我身時令諸外道不得其底同  
 18 梵行者能洗我身又諸外道入水之時當令  
 19 魚鼈擾亂不安同梵行者即無惱害又諸外  
 20 道不能燒我遺身同梵行者方令火著作此  
 21 五種加持念已便入涅槃時諸外道聞善賢  
 22 梵志已入涅槃將諸音樂<sup>9</sup>幢<sup>10</sup>幡傘蓋詣拘尸  
 23 那城於四衢道告諸人曰汝等當知彼大沙  
 24 門喬答摩常作此語唯我法中有八支聖道  
 25 四沙門果外道中無廣説如前乃至作師子

<sup>6</sup> 大正藏では「實」とする。

<sup>7</sup> 右上に「舉」という朱字がある。

<sup>8</sup> 大正藏では「幢」とする。

(第五紙) T24p397a24~

- 1 吼然我法中同梵行者大師善賢亦得涅槃
- 2 與彼何異諸苾芻曰汝等若言是我徒侶任
- 3 自持去而諸外道多人共舉竟不能動況能
- 4 持去苾芻告曰汝等不能我等自舉<sup>12</sup>答曰可
- 5 爾諸苾芻即共舉去外道默然又諸外道來
- 6 至浴池諸苾芻曰今可為汝同梵行者洗沐<sup>13</sup>
- 7 其身彼入水時不得其底又被魚鼈之所擾
- 8 惱苾芻不爾苾芻報曰此若是汝同梵行者
- 9 宜自焚燒而諸外道以火焚燒竟不能著苾
- 10 芻然火遂便炎熾時諸人衆共嗤外道彼各
- 11 懷慚低頭而去時拘尸那城諸壯士等見此
- 12 希奇於世尊處倍生敬仰發淨信心各懷戀
- 13 慕作如是語大悲世尊為最後臥現身有疾
- 14 支節不安尚能為彼善賢説法令速證得阿
- 15 羅漢果復令拘尸那城諸壯士等皆獲善利時
- 16 諸苾芻咸皆有疑請世尊曰如來今時現身
- 17 有疾支節不安尚能令彼善賢梵志出生死
- 18 海證阿羅漢究竟涅槃盡諸苦際佛告苾芻
- 19 汝等當知此未希有我今已斷根本三毒解
- 20 脫生老病死愁憂苦惱具一切智於諸境界
- 21 得大自在令彼善賢出生死海得最後邊住
- 22 涅槃處不足為難我於往昔在生死中具貪
- 23 瞋癡未斷生老病死憂悲苦惱無有智慧能
- 24 善思量在傍生內尚能為彼善賢梵志及拘
- 25 尸那城諸壯士等自捨身命我為汝説宜應

(第六紙) T24p397b20~

- 1 諦聽
- 2 乃往昔時於大山澤有一鹿王千鹿圍繞依
- 3 林而住有大智慧預識機宜於所居處獵者
- 4 來見而往告王時王以兵周遍圍繞鹿王作
- 5 念我若不能救濟衆鹿必被獵人之所屠害
- 6 爾時鹿王四顧瞻望而作是念我今作何方
- 7 便能令群鹿免斯苦厄遂見深山下有澗<sup>14</sup>水
- 8 駛流出谷諸鹿羸弱不能浮越鹿王入澗橫

<sup>12</sup> 右上に「舉」という朱字がある。

<sup>13</sup> 大正蔵では「浴」とする。

<sup>14</sup> 大正蔵では「澗」とする。

9 流而住作大音聲普告群鹿汝等速來可從  
 10 此岸擲上我背逃於彼岸必得存活若不  
 11 爾者當遭屠害於是群鹿次第悉踏大鹿王  
 12 脊皆越駛河得離危難由諸群鹿蹄甲踐蹋  
 13 鹿王皮穿血肉皆盡唯餘脊骨雖極苦痛心無  
 14 退轉悉令群鹿安隱得渡仍懷顧戀誰未渡  
 15 者於群鹿中有一鹿兒不能逃渡爾時鹿王  
 16 雖受極苦尚懷哀念不顧自身從水而出遂  
 17 取鹿兒置於脊上渡至彼岸鹿王遍觀知渡  
 18 盡已氣力將竭臨命終時而發誓願我救群  
 19 鹿及此鹿兒<sup>51</sup>拔<sup>51</sup>濟死厄不惜身命願我當來  
 20 得成無上正等覺時令彼得渡生死羅網置  
 21 最後邊妙涅槃處佛告諸苾芻汝意云何勿  
 22 生異念往時鹿王者即我身是其群鹿者拘  
 23 尸那城諸壯士是其鹿兒者即善賢是  
 24 又諸苾芻如我無智在傍生內喘息不安受  
 25 諸苦毒皮肉支節分解之時救濟善賢令

(第七紙) T24p397c15~

1 至無畏汝等善聽乃往古昔婆羅痾斯時有  
 2 國王名曰梵授以法化世廣如經說王有智  
 3 馬預知前事隣國敬畏悉來朝貢馬既命終  
 4 時諸小王令使報曰汝梵授王今可輸稅分  
 5 與我等若不爾者不得出城如見違者我等  
 6 同來破滅其國王告使曰我不送稅亦不出  
 7 城遂於國內訪求智馬後於異處遂便獲得  
 8 時屬春序卉木敷榮群鳥和鳴甚可愛樂王  
 9 乘智馬將諸姝女遊適芳園歡娛受樂時諸  
 10 小王聞梵授王與諸臣佐及宮姝女在外遊  
 11 戲情無所懼未即入城相與謀計各嚴四兵  
 12 至城門首大臣白王諸小國王不恭朝命敢  
 13 興逆亂來扣城門願見警備王既聞已勅索  
 14 智馬速嚴四兵我自討擊時王乘馬嚴兵誓  
 15 衆共彼鬪戰王恃威力獨處先鋒遂被賊軍  
 16 以槊中馬腸胃皆出受諸楚毒衆苦難堪  
 17 形命無幾仍作是念王遭困厄我若不救是所  
 18 不應宜忍苦楚令王免厄得至城門到無畏

<sup>51</sup> 大正藏では「救」とする。

19 處作是念已周迴顧望無入城路然此城外  
 20 有大浴池名曰妙梵近王宮闕於其池中有  
 21 四蓮花青黃赤白皆悉遍滿于時智馬不顧  
 22 身命騰躍池中踐荷葉上負王渡難直入宮  
 23 中時王纔下馬便命絶時諸小王競入園林  
 24 處處尋覓竟不能得迴軍劫掠各還本居時  
 25 梵授王既免危厄得存性命告婆羅痾斯諸

(第八紙) [24p398a12]

1 大臣等及衆人曰若有能救刹帝利灌頂大  
 2 王命者如何恩賞諸臣白王可分半國王曰  
 3 此之智馬能全我命馬今既死欲何以報諸  
 4 臣答言應為智馬於城四門〔6〕作非時白蓮花  
 5 會廣行惠施盛修福業以資魂路王言甚善  
 6 宜時疾作時王即令太子中宮嫫女臣佐吏  
 7 民莊嚴衢路布列香花幡〔7〕蓋明燈在處懸  
 8 設無不充滿如歡喜園甚可愛樂王令擊鼓宣  
 9 告遠近我於明日欲為智馬於城四門營建  
 10 非時白蓮花會宜可告知集法場所受我供  
 11 養時至雲集隨須給與普令稱意汝等苾芻  
 12 於意云何昔〔8〕時智馬即我身是我為彼王受  
 13 諸楚苦〔9〕身形分解不顧身命尚能救濟令離  
 14 危厄  
 15 時諸苾芻又復有疑請世尊曰大德具壽善  
 16 賢先作何業今為大師最後弟子佛告諸苾  
 17 芻汝等當知自所作業今還自受廣如餘處  
 18 乃至説頌汝等苾芻乃往古昔此賢劫中人  
 19 壽二萬歲時有佛出世名迦攝波十號具足  
 20 在婆羅痾斯仙人墮處施鹿林中時彼如來  
 21 應正等覺有外孫子名曰無憂求解脫故而  
 22 為出家謂解脫果自然可得於八正道而不  
 23 勤修經歷多時竟無果證遊行人間隨處作  
 24 夏時彼如來有緣皆度所作已辦如薪盡火  
 25 滅於其中夜將入涅槃時彼苾芻在無憂樹

<sup>6)</sup> 大正藏では「土垣」とする。

<sup>7)</sup> 大正藏では「幡」とする。

<sup>8)</sup> 大正藏では「彼」とする。

<sup>9)</sup> 大正藏では「苦楚」とする。

(第九紙) T24p398b08~

- 1 下而此樹神聞迦攝波如來當般涅槃悲泣
- 2 雨淚霑無憂身苾芻仰觀問其神曰有何所
- 3 以如是悲啼樹神對曰今日中夜迦攝波佛
- 4 將入涅槃時彼苾芻聞如是語情懷痛切如
- 5 箭入心悲啼號哭發聲大喚樹神問曰何故
- 6 悲啼對曰迦攝波如來應正等覺是我親舅
- 7 我雖依附而不勤修去此既遠難申禮敬我
- 8 是凡夫無力速往是以悲哭樹神報曰然我
- 9 有力令仁疾至不知見佛得有益不苾芻報
- 10 曰我極勇猛若見佛者必能依行證獲果利
- 11 是時樹神以神通力將此苾芻疾至佛所既
- 12 見佛已發清淨心起廣大願時彼如來隨其
- 13 根性為說妙法證阿羅漢果不忍見佛入般
- 14 涅槃是故於先而取滅度時彼樹神既見世
- 15 尊及苾芻涅槃已情懷戀慕作如是念今此
- 16 具壽所獲勝利皆由我得以此功德願我來
- 17 世迦攝波佛所授摩訶婆記人壽百歲得成
- 18 正覺號釋迦牟尼彼涅槃時我得聲聞無學
- 19 果已在先滅度佛告諸苾芻於汝意云何時
- 20 天神者今善賢是由是義故於一切時遠離
- 21 惡友近善知識應如是學
- 22 時阿難隨白佛言世尊我於靜處作如是念
- 23 善知識者是半梵行諸修行者由善友力方
- 24 能成辦得善友故遠離惡友以是義故方知
- 25 善友是半梵行佛言阿難隨勿作是語善知

(第十紙) T24p398c04~

- 1 識者是半梵行何以故善知識者是全梵行
- 2 由此便能離惡知識不造諸惡常修衆善純
- 3 一清白具足圓滿梵行之相由是因緣若得
- 4 善伴與其同住乃至涅槃事無不辦故名全
- 5 梵行何以故阿難隨我由善知識故令諸有
- 6 情於生老病死憂悲苦惱皆得解脫若離
- 7 善友無如是事阿難隨於我所說應勤修學
- 8 爾時佛告諸苾芻曰由是義故從今已去不
- 9 應輒度外道出家并受近圓除釋迦種及事
- 10 火留髻外道若披外道服來求出家及受近
- 11 圓者問無障法此人應與何以故此是我親

- 12 有機緣故其事火人説有業用有<sup>困</sup>有緣有
  - 13 策勵果故此等不勞共住即與出家并受近
  - 14 圓若是自餘外道之類來求出家及近圓者
  - 15 其親教師應與衣服食僧常食四月共住若
  - 16 觀其人性行調柔堪濟度者應與出家并近
  - 17 圓事如是應知
  - 18 復次汝等苾芻若法能於現在及未來世生
  - 19 長利樂者汝等應當受持讀誦為他演説勿
  - 20 使廢忘欲令梵行得久住世安樂人天利樂
  - 21 饒益諸衆生故此法是何所謂契經應頌記
  - 22 別諷頌自説因緣本事本生方廣希有譬喻
  - 23 論議此十二分教若能受持讀誦如説行者
  - 24 能於現未生長利樂乃至慈愍群生佛法久
  - 25 住汝等苾芻我涅槃後作如是念我於今日
- (第十一紙) T24P398c29~
- 1 無有大師汝等不應起如是見我令汝等每
  - 2 於半月説波羅底木又當知此則是汝大師
  - 3 是汝依處若我住世無有異也
  - 4 又始從今日小下苾芻於長宿處不應喚其
  - 5 氏族姓字應喚大德或云具壽老大苾芻應
  - 6 喚小者為具壽然大苾芻於小者處應可存
  - 7 情哀憐覆護生慈念心或以衣鉢鉢絡腰條
  - 8 共相濟給勿令闕事或復教授讀誦禪思使
  - 9 有日益如是能令我法增長若不爾者法當
  - 10 速滅又汝等苾芻此地方所有其四處若有
  - 11 淨信男子女人乃至盡形常應繫念生恭敬
  - 12 心云何為四一謂佛生處二成正覺處三轉
  - 13 法輪處四入大涅槃處若能於此四處或自
  - 14 親禮或遙致敬念虔誠生清淨信常繫心
  - 15 者命終之後必得生天(比於西方親見如來一代五十餘年居止之處有其八所一)
  - 16 (本生處二成道處三轉法輪處四鷲峯山處五廣嚴城處六從天下處七祇樹園處八雙林涅槃處四)是定處餘皆不定總攝頌曰生
  - 17 (成法鷲廣下祇林虔誠一想福勝千金)
  - 18 復次佛告諸苾芻汝等有疑今悉應問若於
  - 19 佛法僧寶苦集滅道四聖諦處有疑問者我
  - 20 當為答

<sup>88</sup> 右上に「困」という朱字がある。



- 21 時具壽阿難隨白佛言世尊如我今者解佛
- 22 所説命諸苾芻有疑當問然此衆中竟無一
- 23 人於佛法僧寶苦集滅道諦有懷疑惑更須
- 24 問者佛言善哉善哉阿難隨汝能如實通達
- 25 作如是語於此衆內我以智觀於諦寶中實

(第十二紙) T24p399a26~

- 1 無疑者此是如來最後所作爾時如來大慈<sup>21</sup>
- 2 愍故遂去上衣現其身相告諸苾芻汝等今
- 3 者可觀佛身汝等今者可觀佛身何以故如
- 4 來應正等覺難可逢遇如烏曇跋羅花時諸
- 5 苾芻咸皆默然佛言法皆如是諸行無常是
- 6 我最後之所教誨作是語已安心正念入初
- 7 靜慮從此起已順次第入第二靜慮乃至非
- 8 想非非想處及滅受想定寂然宴默時阿難
- 9 隨問尊者阿尼盧陁曰今我大師為入涅槃
- 10 為未入耶答曰佛未涅槃但住滅受想定阿
- 11 難隨言我曾從佛親聞此語若佛世尊入邊
- 12 際定寂然不動從此無間世間眼閉必入涅槃
- 13 爾時世尊從滅受想定出逆次第入非想
- 14 非非想處從非想非非想出入無所有處次
- 15 入識無邊處次入空無邊處次入第四靜慮
- 16 入第三入第二入初靜慮從初禪出還入第
- 17 二第三第四靜慮寂然不動便入無餘妙涅槃
- 18 槃界
- 19 爾時世尊纔涅槃後大地震動流星晝現諸
- 20 方熾然於虛空中諸天擊鼓時具壽大迦攝
- 21 波在王舍城羯蘭鐸迦池竹林園中見大地
- 22 動即便斂念觀察何事便見如來入大圓寂
- 23 自念我今既無大師唯依法住諸行法爾知
- 24 更何云<sup>22</sup>復作是念此未生怨王勝身之子信
- 25 根初發彼若聞佛入涅槃者必嘔熱血而死

(第十二紙) T24p399b22~

- 1 我今宜可豫<sup>23</sup>設方便作是念已即念<sup>24</sup>城中行

<sup>22</sup> 大正藏では「悲」とする。

<sup>23</sup> 大正藏では「云何」とする。

<sup>24</sup> 大正藏では「預」とする。

<sup>25</sup> 大正藏では「命」とする。

- 2 雨大臣仁今知不佛已涅槃未生怨王信根
  - 3 初發彼若聞佛入涅槃者必嘔熱血而死我
  - 4 今宜可預設方便即依次第而為陳説仁今
  - 5 疾可詣一園中於妙堂殿如法圖畫佛本因
  - 6 緣菩薩昔在觀史天宮將欲下生觀其五事
  - 7 欲界天子三淨母身作象子形託生母腹既
  - 8 誕之後踰城出家苦行六年坐金剛座菩提
  - 9 樹下成等正覺次至婆羅痾斯國為五苾芻
  - 10 三轉十二行四諦法輪次於室羅伐城為人
  - 11 天衆現大神通次往三十三天為母摩耶廣
  - 12 宣法要寶階三道下贍部洲於僧羯奢城
  - 13 人天渴仰於諸方國在處化生利益既周將
  - 14 趣圓寂遂至拘尸那城娑羅雙樹北首而臥入
  - 15 大涅槃如來一代所有化迹既圖畫已次作
  - 16 八函與人量等置於堂側前七函內滿置生
  - 17 蘇<sup>89</sup>第八函中安牛頭梅檀香水若因駕出可
  - 18 白王言暫<sup>90</sup>迂神<sup>91</sup>躬詣芳園所觀其圖畫時王
  - 19 見已問行雨言此述何事彼即次第為王陳
  - 20 説一如圖畫始從觀史降身母胎終至雙林
  - 21 北首而臥王聞是語即便悶絕宛轉于地可
  - 22 速移入第一函中如是一二三四乃至第七
  - 23 後置香水王便蘇息是時尊者次第教已往
  - 24 拘尸那城行雨大臣一如尊者所教之事故
  - 25 第作已時王因出大臣白言願王暫迂神駕
- (第十四紙) T24p399c18~
- 1 遊觀園中王至<sup>92</sup>園<sup>93</sup>所見彼堂中圖畫新異始
  - 2 從初誕乃至倚臥雙林王問臣曰豈可世尊
  - 3 入涅槃耶是時行雨默然無對王見是已知
  - 4 佛涅槃即便號咷悶絕宛轉于地臣即移舉
  - 5 置蘊函中如是至七方投香水從此已後王
  - 6 漸蘇息
  - 7 爾時如來入涅槃時娑羅雙樹名花下散彌
  - 8 覆金軀時有苾芻見斯事已而説頌曰
  - 9 世尊涅槃時 最勝娑羅樹 低枝下垂蔭 復散以名花
  - 10 時天帝釋亦説頌曰

<sup>89</sup> 大正藏では「蘇」とする、以下同様。

<sup>90</sup> 大正藏では「迂駕」とする。

<sup>91</sup> 大正藏では「園」とする。

- 11 諸行無常 是生滅法 生滅滅已寂滅為樂
- 12 時梵天王亦説頌曰
- 13 於一切世間 生者皆歸死 無常力最大 諸行盡淪亡
- 14 大師世間眼 十力無與等 化緣既周遍 寂滅在雙林
- 15 爾時尊者阿尼盧陁亦説頌曰
- 16 佛無出入息 其心亦湛然 世眼今已閉 寂然安不動
- 17 世尊十力具 化盡入無餘 見聞諸有情 毛豎心驚怖
- 18 汝心莫沈沒 亦勿懷憂惱 佛證真木叉 譬如燈焰滅
- 19 時諸苾芻見佛世尊般涅槃已各懷悲感或
- 20 有迷悶宛轉于地椎胸大喚心生憂慘或有
- 21 尋思法理作如是説我等今時宜自裁忍世
- 22 尊常説一切光花可愛樂事雖是尊重終歸
- 23 無常悉皆離別
- 24 時阿尼盧陁告阿難陁曰具壽宜應勸誘大
- 25 衆且各裁抑勿乖儀式莫大悲號所以者何

(第十五紙) T24p400a21~

- 1 於此現有住百千劫長壽諸天皆生嫌恥作
- 2 如是語云何苾芻於佛世尊善説法律而為
- 3 出家不能善觀諸無常事乃生憂苦阿難
- 4 陁白言此諸天衆其數幾何答曰從此拘尸那
- 5 城乃至金河及娑羅雙樹至壯士繫冠制底
- 6 於此四邊周二十二踰繕那大威德天悉皆充
- 7 滿無有空隙可容立杖而此諸天見佛涅槃
- 8 各懷悲感椎胸懊惱悶絕于地亦有如前共
- 9 相開解且各裁止乃至終歸無常悉皆離別
- 10 于時尊者阿尼盧陁為阿難陁及諸大衆廣
- 11 説法要乃至天明時苾芻等默然聽受阿尼
- 12 盧陁復告阿難陁曰汝今宜往拘尸那城告
- 13 諸壯士昨於中夜如來大師已入無餘妙涅槃
- 14 槃界仁等今時所應作者宜當速辦勿為後
- 15 悔復重告曰如來大師於汝城邑入般涅槃
- 16 爾等云何不興供養報佛慈恩時阿難陁聞
- 17 是語已即持大<sup>82</sup>衣將一苾芻以為侍者往壯
- 18 士集堂有五百人先在堂處尊者告曰仁等
- 19 壯士及諸大衆如來大師已於中夜入無餘
- 20 依妙涅槃槃界仁等今時所應作者宜應速辦

<sup>82</sup> 大正藏では「天」とする。

21 勿生後悔又重告曰如來大師於汝城邑入  
 22 般涅槃汝等云何不興供養報佛慈恩時諸  
 23 壯士聞是告已或有悶絕宛轉于地椎胸大  
 24 喚身體戰慄不能自持或有高聲作如是語  
 25 我於佛所曾聞是說世間無常悉皆離別時

(第十六紙) T24p400b17~

1 諸壯士共相謂曰宜各齎持種種花鬘塗香  
 2 末香燒香及諸妙物音聲鼓樂速往雙林以  
 3 申供養并大臣輔相各與眷屬男女大小親  
 4 友知識出拘尸城詣雙林所既至彼已於佛  
 5 臥處師子床前盡哀情已各持所有上妙諸  
 6 香名花無數幢幡繒綵飲食奇珍奏諸音樂  
 7 廣供養已白阿難陁曰無上法王已歸圓寂  
 8 不知今者葬禮如何尊者告曰然我先已奉  
 9 佛教勅所有葬法如轉輪王問曰其法如何  
 10 答曰以白疊絮先用裹體次以千張白疊周  
 11 遍纏身置金棺中盛滿香油覆以金蓋積<sup>施</sup><sub>6</sub>  
 12 檀木及海岸諸香以火焚燎後將牛乳澆火  
 13 令滅有餘舍利盛以金瓶於四衢大道建窠  
 14 觀波周匝圍繞懸繒幡蓋塗末燒香奏衆伎  
 15 樂恭敬供養設大施會此是輪王焚葬之法  
 16 如來大師倍勝於此  
 17 時諸壯士聞是語已白尊者曰我領其言然  
 18 非一二三日能辦此事若至七日住者如前  
 19 所為方可成就答言可爾是時諸人即便如  
 20 前依輪王葬法一一備具無有闕少從拘尸  
 21 那城周圍十二踰繕那乃至繫冠制底所有  
 22 無量歸仰衆生咸來雲集各持香花種種伎  
 23 樂供養之具壯士眷屬皆悉出城詣雙樹間  
 24 於師子床前陳設所有盡心供養時壯士中  
 25 有一耆宿告諸人曰現在大衆女持幢幡男

(第十七紙) T24p400c13~

1 可擊輿我等齎持種種花綵塗香末香燒香  
 2 及諸音樂從拘尸那城西門而入於東門出  
 3 度金沙河至壯士繫冠制底勝處安置以火

<sup>6</sup> 大正藏では「梅」とする。

- 4 焚燒是時諸人聞是語已各各爭前欲舉<sup>88</sup>金
- 5 棺雖共盡力竟不能動
- 6 爾時具壽阿難隨白尊者阿尼盧陁曰拘尸
- 7 那城諸壯士等雖竭筋力竟不能動如來金
- 8 棺我今不知有何所以尊者告曰此是諸天
- 9 作如斯意欲令壯士及諸人民女持幢幡男
- 10 捧尊輿威儀整肅翊從如來我等諸天共持
- 11 花綵燒衆妙香奏天伎樂廣陳供養於西門
- 12 入東門而出度金沙河至繫冠制底以是因
- 13 緣威儀未備不能移動是時具壽阿難隨報
- 14 尊者曰若如是者可隨天意時諸壯士即隨
- 15 天願備設如前方來持輿即便輕舉捧戴而
- 16 行于時空中天雨噀鉢羅花拘<sup>89</sup>頭花鉢頭
- 17 摩花分陁利花沈水末香梅檀末香多揭羅
- 18 多摩羅末香及曼陀羅花等諸天伎樂百千
- 19 萬種於虛空中一時俱奏諸天花蓋其從如
- 20 雲并散天衣有盈億數時拘尸那城諸壯士
- 21 等各相謂曰天供養已我等應為時諸壯士
- 22 及餘一切貴賤男女營辦香花威儀嚴肅
- 23 百千萬種不可勝紀恭敬供養隨從金棺城中
- 24 而過度金沙河至繫冠制底所散之花積至
- 25 于膝于時有一外道梵志聞佛滅度詣娑羅

(第十八紙) T24p401a09~

- 1 林持花數莖還波波聚落於其中路逢<sup>90</sup>迦攝
- 2 波與五百弟子威儀整肅將詣雙林禮大師
- 3 足遇見外道問言汝從何來欲向何處外道
- 4 答曰我從拘尸那來將詣波波聚落迦攝波
- 5 知而故問汝從彼來知我大師釋迦牟尼如
- 6 來四大安不外道答言我從彼來親見大德
- 7 喬答摩已入涅槃經今七日自滅度來所有
- 8 人天皆以香花種種威儀具申供養遺身舍
- 9 利我從彼會得此花來大迦攝波所將五百
- 10 人中有一莫訶羅苾芻稟性愚癡不辨<sup>91</sup>好惡
- 11 聞外道語遂出僂言快哉樂哉我等從今免

<sup>88</sup> 右上に「舉」という朱字がある。

<sup>89</sup> 大正蔵では「物」とする。

<sup>90</sup> 大正蔵では「逢大」とする。

<sup>91</sup> 大正蔵では「辯」とする。

12 被拘制於諸戒律云此應作此不應作此事  
 13 皆息自今已後能持不持皆由於我可行者  
 14 行不須者棄時彼老叟出此語時空中諸天  
 15 聞其非法即以神力掩蔽聲響不令人聞唯  
 16 迦攝波領知斯語是時尊者為教誨彼故即  
 17 於道傍暫時停歇與衆俱坐告言諸具壽世  
 18 間諸行皆悉無常體不堅牢是難委信不得  
 19 久存並歸散滅宜起厭離勿生愛著且止斯  
 20 事我等速往見佛全身各並前進時諸壯士  
 21 并四衆等先用疊絮裹如來體次以千張白  
 22 疊周匝纏身置香油棺覆以金蓋各持香木  
 23 如法焚燒火不能著時阿尼盧陁告阿難陁  
 24 曰雖欲然火終無著法問其何故答曰斯為  
 25 諸天不令火著復問何緣答曰為大迦攝波

(第十九紙) T24p401b05~

1 與五百徒衆隨路而來欲見世尊金色全身  
 2 親觀焚燎為待彼故天不令燒時阿難陁即  
 3 以此事普告衆知須臾尊者徒衆皆至拘尸  
 4 那城諸人遙見尊者衆來各持香花種種音  
 5 樂詣尊者所頭面禮足時有無量百千大衆  
 6 隨從尊者詣世尊所除去香木啓大金棺千  
 7 疊及絮並開解已瞻仰尊容頭面禮足於此  
 8 時中唯有四大耆宿聲聞謂具壽阿若憍陳  
 9 如具壽<sup>准</sup> 陁具壽十力迦攝波具壽摩訶迦  
 10 攝波然摩訶迦攝波有大福德多獲利養衣  
 11 鉢藥直觸事有餘尊者作念我今自辦供養  
 12 世尊即辦白疊千張及白疊絮先以絮裹後  
 13 用疊纏置金棺中傾油使滿覆以金蓋積諸  
 14 香木退住一面由佛餘威及諸天力所有香  
 15 木自然火起時阿難陁右繞火積說伽他曰  
 16 如來妙體歸圓寂 自然火起燎餘身  
 17 唯留內外一雙全 所有千衣隨火化  
 18 時拘尸那城諸壯士等欲以牛乳注火令滅  
 19 未瀉之頃其火積中忽生四樹一金色乳樹  
 20 二赤色乳樹三菩提樹四烏曇跋樹於此樹  
 21 中乳自流出令火皆滅是時拘尸那城諸貴

<sup>32</sup> 大正藏では「難」とする。

- 22 賤等共收舍利盛金瓶中置七寶輿上以種種
- 23 種香花梅檀沈水塗香末香燒香繪蓋懂幡
- 24 音聲伎樂廣陳供養舉入城中安妙堂上復
- 25 更如前盛興供養是時波波聚落諸壯士等

(第二十紙) T24p401c02~

- 1 聞佛世尊於拘尸那城入般涅槃已經七日
- 2 無量人天廣陳供養於其聚落總集四兵象
- 3 馬車步各自嚴辦種種器仗共詣拘尸那城
- 4 欲分舍利既至城已報諸人曰無上法王衆
- 5 生慈父我等諸人比於長夜供養恭敬親承
- 6 訓導受持正法今既滅度有餘舍利我等欲
- 7 取將往波波聚落建窠觀波安置供養城中
- 8 諸人聞斯告已成作是言世尊導師是我慈
- 9 父親承訓誘既於我界而般涅槃全身舍利
- 10 應留永劫於此供養終不分與外邑諸人時
- 11 波波人遣使答曰若分者善如不與者我等
- 12 當以強力奪取城人聞已告彼衆曰徒事鬪
- 13 戰終不可得
- 14 爾時遮洛迦邑部魯迦邑阿羅摩邑吠率奴
- 15 邑劫比羅城諸釋迦子薛舍離栗姑毘子悉
- 16 皆來集是時摩伽陁國末生怨王既聞佛世
- 17 尊於拘尸那城入般涅槃一切人天廣設供
- 18 養既聞是事生大憂苦遂告行雨大臣曰卿
- 19 今知不我聞世尊已入涅槃在拘尸城大興
- 20 供養為爭舍利諸處競來欲相侵奪我今亦
- 21 往請取身骨臣曰如是應作<sup>58</sup>整兵便往拘尸
- 22 那城時末生怨王遂乘大象欲往佛所纔昇
- 23 象上念佛恩深心便悶絕從象墜墮宛轉于
- 24 地良久乃蘇便乘馬去念佛恩故不能抑止

(第二十一紙) T24p401c26~

- 1 還墮于地久蘇息已告行雨大臣曰我今不
- 2 能親往佛所卿等今者可領四兵往拘尸那
- 3 城傳我言教問訊壯士少病少惱起居輕利
- 4 安樂行不世尊在日接引我等長夜慇懃是
- 5 我大師今於仁等聚落入般涅槃有遺舍利

<sup>58</sup> 大正藏では「裝」とする。

- 6 幸與一分於王舍城作窺觀波冀申敬重香
- 7 花伎樂種種供養行雨白言如王教勅即嚴
- 8 四兵詣拘尸那城告諸壯士曰仁等咸聽摩
- 9 伽陀國未生怨王問訊仁等具說如前世尊
- 10 大師於我等輩常為饒益令得安樂可尊可
- 11 敬今者於仁聚落入般涅槃有遺舍利幸當
- 12 與分於王舍城建窺觀波廣興供養諸壯士
- 13 曰世尊誠是饒益安樂一切群生可尊可敬
- 14 然於今者在我聚落入般涅槃有遺舍利王
- 15 欲見分此誠難得時行雨臣告諸壯士曰若
- 16 其仁等能與者善如不見我加兵力強奪
- 17 將去答言任意時諸人衆悉皆大集闐噎城
- 18 隅城中所有壯士男女並閉弓箭即便總出
- 19 象馬車步嚴整四兵欲共七邑兵交合戰

(第十一紙) T24p402a17~

- 1 根本説一切有部毘奈耶雜事卷第三十八
- 2 皇后藤原氏光明子奉為
- 3 尊孝贈正一位太政大臣府君尊妣贈從一
- 4 位橘氏太夫人經寫一切經論及律莊嚴既
- 5 了伏願憑斯勝目奉資實實助永庇菩提

(第二十三紙)

- 1 之樹長遊般若之津又願上奉 聖朝恒
- 2 派福壽下及寮采共盡忠節又光明子自
- 3 菩薩誓言弘濟沉淪勤除煩障妙窮諸法早
- 4 契菩提乃至傳燈無窮流布天下聞名持卷
- 5 獲福消災一切迷方會歸覺路
- 6 天平十二年五月一日記
- 7 昭和八年十月修理
- 8 監督 帝室博物館總長杉榮三郎
- 9 主任 奈良帝室博物館長心得和田軍一